

◆三宅和広議員 おはようございます。

議席番号3番の三宅和広です。

本日は、午前と午後の時間をいただきまして、政和会の5人から質問をさせていただきます。そのトップバッターを務めさせていただきます。

それでは、通告に従いまして質問をさせていただきます。よろしくお願いたします。

まず初めに、質問事項の1番目、天童市の婚活支援事業についてお尋ねします。

平成 22 年に実施した国勢調査によると、結婚したことがない人の割合、未婚率は、男性では 30 歳から 34 歳で 47%、35 歳から 39 歳で 36%、生涯未婚率、これは大体 50 歳時の未婚率ということだそうですが男性で 20%、女性では 30 歳から 34 歳で 35%、35 歳から 39 歳で 23%、生涯未婚率の方は 11%となっております。極めて高い数字ではないかなと思います。

また、国立社会保障・人口問題研究所が平成 22 年に実施した出生動向基本調査(結婚と出産に関する全国調査)では、18 歳から 34 歳までの未婚者のうち、男性では 86%、女性では 89%が、「いずれは結婚するつもり」と答えており、結婚意欲は高いと言えます。しかし、先ほど申し上げましたように未婚率は高い状況です。

25 歳から 34 歳の独身者に、独身でいる理由を3つ挙げてもらったところ、「適当な相手にめぐり合わない」と回答した人が最も多く、男性で 46%、女性で 51%でした。しかも、18 歳から 34 歳までの未婚者のうち、「交際している異性はいない」と回答した人が、男性では 61%、女性で 50%に上り、一方で、結婚したいと思う交際相手がいる男性は 18%、女性では 27%にとどまっています。結婚はしたいと思うがその相手にめぐり合わないため結婚できないと考えている人が多いことを示しています。この傾向は近年強くなってきており、一方で、「趣味などを楽しみたいために結婚しない」「自由さを失いたくないために結婚しない」と考える人は減ってきています。

さて、政和会では、7月に北海道千歳市を訪問し、結婚活動応援事業を視察してまいりました。

千歳市の人口は約9万 6,000 人で、昨年より 600 人人口が増えたとのことでした。年齢構成を他市と比べると、15 歳から 64 歳までの年少人口と労働人口の割合が高く、65 歳以上の高齢人口の割合が低くなっており、平均年齢は 42.6 歳で、北海道一若い町となっているとのことでした。天童市と比較しても千歳市の方が若いようです。

そうした千歳市ですが、人口推移では年少人口と労働人口の割合は低くなってきており、一方、高齢人口の割合は高くなってきているとのことでした。また、合計特殊出生率や婚姻率も、全国平均や北海道平均よりは高いものの減少傾向にありました。

そのため千歳市では、人口問題対策はすぐには効果が現れないという理由から、人口が減り始める前に対策を講じておく必要があるとの判断で、平成 28 年3月に策定した「千歳市人口ビジョン・総合戦略」の中で、課題として、婚姻率の向上と出生率の向上を挙げ、若い世代でパートナーとめぐり会える機会を増やし初婚年齢を引き下げる取り組みや、子どもを産み育てやすい環境、暮らしやすい環境をつくる取り組みを実施していました。

結婚活動応援事業の具体的な内容としては、結婚活動応援事業の愛称の設定、結婚活動応援事業のキャラクターの作成、結婚パーティー・婚活セミナーの実施をしていました。

愛称は「かつ婚ちとせ」、ひらがなで「かつ」、漢字で「婚」と書き、「かつ婚ちとせ」としていました。インパクトを出すために婚活を逆さ読みにして「かつ婚」とし、「かつ」には、自分自身に「克」を入れ、結婚「活」動を開始し、婚活パーティーで「勝」つという3つの意味を持たせたそうです。

キャラクターは、独身男女の「縁」を取り(鳥)持ち(餅)、結婚支援につなげたいという意味で「とりもっちーズ」という図案を作成したそうです。この図案は職員が作成したとのことでした。

また、婚活パーティー・婚活セミナーは、昨年度は3回実施し、84人が参加、15組のカップルが誕生したそうです。

第1弾目は「学んで実践、こんかつのススメ」として、独身男女や独身男女を持つ親、地域の世話焼きさんを対象にした講演と「婚活パーティー」を、第2弾では「ぷちバスツアー婚活」を、第3弾では「スキー・スノボツアー、ゲレンデDe婚活」を実施していました。3回分の経費は約100万円だったそうです。

今年度も3回の婚活パーティー・婚活セミナーを予定しておりまして、既に終了した第4弾では、心理学や体の姿勢のインストラクターを講師に招き、婚活パーティーの中でさりげなくセミナーの要素を組み入れて、男女がペアで婚活力を磨けるイベントにしたそうです。40人が参加し9組のカップルが誕生したそうです。

婚活パーティー・婚活セミナーをこれまで4回実施しましたが、担当の職員の方の感想は、「同じ趣味を持っている人が集まる企画はカップルの達成率が高いようだ」とのことでした。

千歳市では以上のような取り組みを実施していました。人口減少問題を解決するには出生数を増やす施策が必要であり、雇用環境の改善、子育て支援策の充実などとあわせて、男女が出会う場の創出も必要だと思えます。

天童市では、総合戦略の中に「若い世代の出会いの機会を創出する取り組みを支援する」と定め、今年度の婚活支援事業として、「婚活セミナー開催事業」「婚活イベント開催事業費補助事業」「むらやま広域婚活事業」「やまがた出会いサポートセンター事業」「婚活支援団体等の情報交換及び連携推進事業」を実施することとしています。新規の事業を含め取り組んでいるわけですが、それぞれの事業の詳細はどのようなものか。また、それらの現時点での進捗状況をお伺いしたいと思います。

次に、質問事項の2番目、天童市の林業振興事業についてお伺いします。

平成 25 年に山形県と県内全市町村が連携し「やまがた里山サミット」を設立し、オール山形での取り組みの展開に向け「やまがた森林ノミクス」を宣言しました。この宣言は、県土の約7割を占める豊かな森林資源を「森のエネルギー」「森の恵み」として積極的に活用することで、産業を振興し、新たな雇用の創出と持続可能な地域経済の基盤づくりを目指すものです。山形県が持っている資源を活用して、新たな雇用の創出と持続可能な経済基盤の確立を目指すもので、実現すればすばらしいシステムができ上がると思えます。

3年ほど前になりますが、YBCの「やまがたサンデー5」という番組で、最上町の木質バイオマスエネルギーを活用した取り組みが放送されていました。バイオマスボイラーで沸かし

たお湯を、町立病院、健康センター、高齢者総合福祉センター、介護老人保健施設などの施設に供給して、冷暖房や給湯、それから融雪に使うというもので、最上町から出る間伐材を燃料に使うことで森林の整備が進み、林業の活性化にもつながっているとのことでした。

さらに、それまでは油によるボイラーを使っており、それをバイオマスボイラーに変えたわけですが、油は、山形県内では産出しませんから、油によるボイラーでは資金が町の外に流れてしまっていました。しかし、最上町産の間伐材を使うバイオマスボイラーにしたことで資金が町内で循環するようになり、新たに5人の雇用を生んだそうです。エネルギーの地産地消で、持続可能な経済基盤の確立と新たな雇用の創出に成功した事例だと思えます。

平成 27 年度版の「天童市の農林業」によると、天童市の林野面積は、天童市の総面積の 33%に当たる 3,777 ヘクタールであり、そのほとんどに当たる 3,561 ヘクタールが民有林とされています。また、1,440 ヘクタールが人工林で、人工林率は 37.6%と県平均より高くなっています。

天童市の林野面積は最上町より狭いようですが、何十倍もの差があるわけではなく、天童市でも最上町と同じように、間伐材を利用したエネルギーの地産地消を進めることは可能だと思えます。それによって新たな雇用の場をつくり出し、あわせて、森林の整備を進めることによって林業の活性化を図ることも可能であると思えます。

天童市でも森林資源を積極的に活用し、新たな雇用の創出、地域経済の活性化を図る必要があると考えますが、天童市として、森林資源を積極的に活用するための現在の取り組み状況はどのようになっているのか。また、今後の取り組みの予定をお伺いしたいと思います。

以上、1回目の質問といたします。

◎山本信治市長 おはようございます。

三宅和広議員の御質問にお答え申し上げます。

初めに、本市の婚活支援事業についての本市の婚活支援事業の内容の詳細と現時点での進捗状況について申し上げます。

本市では、少子化の要因の一つである未婚化及び晩婚化に対する取り組みとして、結婚を望む独身者を対象に、さまざまな結婚活動支援事業を実施しております。

具体的には、婚活セミナー開催事業として、異性とのコミュニケーション力などの向上を図る婚活スキルアップセミナーを3回、婚活の現状と心構えを学ぶセミナーを1回実施する予定であります。

また、婚活イベント開催事業費補助事業として、結婚支援活動を行う団体が実施する婚活イベント等に対し、今年度から新たに支援をしております。

さらに、婚活支援団体等の情報交換及び連携事業として、市内婚活支援団体等との意見交換会を5月 25 日に開催し相互の情報交換を行うなど、連携、強化を図っております。

広域的な取り組みとしては、村山管内の4市7町と民間団体等が連携し、村山地域の独身男女の出会いの場を創出する「むらやま広域婚活事業」を年3回程度実施する予定であります。

また、県及び市町村、経済団体などからなる「やまがた出会いサポートセンター」を組織し、県内一体となって結婚支援の充実、強化に取り組んでいるところであります。主な事業とし

ましては、1対1のお見合い支援サービス事業や出会いイベントの情報発信、企業等が連携した独身者の交流機会の創出などを実施しております。1対1のお見合い支援サービスの事業の6月末の会員登録状況は 1,368 名となっており、本市からは 85 名が登録をしております。なお、今年度の県全体の成婚組数は6月末で4組となっております。

今後とも結婚活動支援事業に取り組み、若い世代の出会いの機会を創出してまいりたいと考えております。

次に、本市の林業振興事業についての森林資源を積極的に活用するための本市としての取り組みについて申し上げます。

本市の民有林のうち、杉やカラマツ等の植栽がされている人工林は 1,263 ヘクタールで、林野面積の約3分の1となっております。

現在、県内に大型集成材工場や木質バイオマス発電施設の稼働が計画されており、また、市内企業における杉間伐材を利用した木製家具の製造など、県内における木材需要拡大が見込まれているところであります。

しかし、良質な木材の出荷等には、苗木の植えつけ、下刈り、間伐、林道・作業道の造成などの森林整備が必要不可欠となっております。この森林整備を行うためには、国や県の助成を受けながら実施することになりますが、この助成を受けるためには、森林所有者または森林所有者から経営の委託を受けた森林組合が森林経営計画を作成し、市から認定を受けることが必要であるため、この計画を作成する森林組合等の役割が非常に重要であると認識しております。

なお、民有林のうち約 120 ヘクタールが市行造林として市が計画的な間伐等の保育作業を行っております。

本市としましては、森林の持つ多面的機能を保全するため、引き続き、松くい虫の防除等や里山林の整備に努めるとともに、森林組合等が本市の森林資源を積極的に活用した活動を支援し、林業の振興を図ってまいりたいと思います。

◆三宅和広議員 御答弁ありがとうございました。

それでは再質問をさせていただきたいと思います。

まず、婚活セミナー開催事業についてお伺いします。

具体的に動き出しているということで安心しているところでございますが、また、昨日ですか、10月10日の婚活スキルアップセミナーの方をメールで皆様方に配信をされているということで、ぜひ多くの方から参加していただければよろしいのかなと思います。

1点気になった点がございます。

この婚活スキルアップセミナーですが、10月8日のものについては、午前中が女性を対象にした「ずるくらい思いのままに夢がかなう」恋愛力と婚活力アップのためのセミナー、それから、午後が男性を対象にした「男女の違いとコミュニケーション」コミュニケーション力アップのためのセミナーというふうになっております。2時間程度のセミナーというものでございますけれども、セミナーというものに参加者が集まるのかなというのがちょっと心配な点でございます。セミナーというと非常にかた苦しいイメージがあるのではないかなと思っております。結婚を望む方であっても敬遠してしまう、そんなことが心配されるのかな

と思っているところでございます。結婚を望む方にとっては、婚活パーティーのようなそういったイベントの方が参加しやすい、望んでいるものではないかなと思っております。

千歳市では、婚活パーティーの中にさりげなくセミナー的な要素を組み入れる。天童市とは逆に、婚活パーティーの方を中心に力を入れているというふうなことでございました。これまで千歳市では4回開催をいたしまして24組のカップルが誕生したそうです。

今年度の事業内容は既に決まっておりますので仕方がないのかなとは思いますが、来年度以降、ぜひ婚活パーティーをメインにして、同時にセミナー的な要素を入れる、そんな取り組みにはいかがかなと思っておりますが、市の考えをお尋ねしたいと思っております。

◎武田淳総務部長 お答え申し上げます。

平成27年度について4回、このセミナーを開催しておりますが、そのうち3回は、いわゆるパーティーとセミナーをセットで開催させていただいた経過がございます。その反省を踏まえますと、1日でセミナーとパーティーとなりますと、参加者の方から、少し忙しくて日程的にちょっときついのではないかなどという御意見もありましたので、今年度についてはあくまでもイベントを主体に、今、議員からありましたとおりイベントを中心にして、その直前にセミナーの方を開催するようなことで日程を調整させていただければと考えているところであります。

◆三宅和広議員 昨年度4回、イベントを開催されて、日程的にタイトな日程になって大変だという意見があったということなのだと思うのですが、セミナーというのをちょっと手を抜いて、婚活パーティー、イベントを中心のものにすればいいのかなというところでございますので、その辺のところ、ぜひ御検討していただければよろしいのかなと思っております。

それから、婚活セミナー開催事業ということで、2月18日に支援者向けのセミナーを予定されているというふうにホームページで拝見しました。2月ではちょっと遅いのかなと思っておりますので、これを早目に開催された方がより期間が長い、効果が得られる期間が長いと思っておりますので、その辺のところも御検討していただければよろしいのかなと思っております。よろしくお願いたします。

次に、婚活イベント開催支援についてお尋ねしたいと思っております。

こちらの方、先ほど御説明はなかったのかなと思いましたが、現在の応募状況はどのようになっていますでしょうか。

◎武田淳総務部長 お答え申し上げます。

現在のところ残念ながら応募はございません。この理由をちょっと考えてみたところですが、独自に各団体の方でイベントをやっておりますして、補助金をもらおうとイベントの開催が、いわゆる制約が出てくるのではないかなというような御心配をなされている団体もあるようであります。

これについては、当初、周知を図りましたが、再度、制度の内容、趣旨について御説明をさせていただいて、できるだけ応募していただけるように、再度努力させていただきたいなと思っております。

◆三宅和広議員 せっかくの事業でございますので、多くの団体から申し込んでいただければいいのかなと思います。

対象として団体を対象にしておるのですが、例えば仲人をやっている方が個人としてイベントをやりたいなどという場合もあるのかなと思います。団体であるからしっかりした事業ができるとは限らないのではないかと、しっかりしている個人の方もいらっしゃるのかなという気がします。個人であっても事業計画書とか収支予算書をきちんと提出していただければ、補助の対象にしてもよろしいのかなと思います。

広く個人にも門戸を広げまして広く申請を受け付けて、事業内容とか計画書とか収支予算書のほうで適正に審査をした方が、いいイベントが集まるのではないかなという気がします。その辺のところはいかがでしょうか。

◎武田淳総務部長 お答え申し上げます。

今回の新しい補助事業につきましては、組織的な広がりを目指していただきたいということで団体を想定させていただきました。

ただ、これについては、今年度の状況を見ながら、なかなかそういった対応が難しいということであるとすれば、来年度については個人的な対応について少し考えていく必要があるかなと思っております。まずは今年度の状況を少し見させていただければかなと思っております。

◆三宅和広議員 来年度、ぜひ検討していただければよろしいのかなと思います。よろしくお願いたします。

それから、「やまがた出会いサポートセンター」についてお伺いしたいと思いますが、天童市として85名の方が登録をされているというお話だったと思います。

結婚適齢と思われる25歳から39歳までの天童市の人口約1万人ほどいます。これに、先ほど申しました未婚率などを掛け合わせて、大体未婚者数どれくらい出るのかなと概算を出してみました。正確な数ではないのですが、25歳から39歳までの世代で、およそ3,700人ほどの未婚者がいるように推定されます。これに対して85名というのはちょっと少ないのかなと思います。せっかく出会いサポートシステムをつくっているのですから、天童市として、もっとPRをする必要があるのではないのでしょうか。

天童市のホームページの「婚活のページ」でございますが、トップページから「生活情報」の「まちづくり・住まい」の中の最後の方に「その他の市民活動」というのがあります。その中に「結婚活動応援」というものがあります。大変わかりづらいという状況だと思います。もっと上の方のわかりやすいところに、婚活情報を置いた方がいいのかなと思いますが、その辺のところはいかがでしょうか。

◎武田淳総務部長 お答え申し上げます。

この点については議員おっしゃるとおりでありまして、ちょっとわかりづらいところにありますので、今後、ホームページの位置についてはわかりやすいところに位置づけていきたいと思っております。

総合戦略にも位置づけられておりますので、それにふさわしい場所に位置づけたいと考えております。

◆三宅和広議員 ぜひ、総合戦略にしているところがございますので、ぜひわかりやすいところに入れていただければいいのかなと思います。次に、「むらやま広域婚活事業」についてお伺いします。

こちらの方は、今年度はこれからの実施のようでございますので、昨年度ですが、全体で何人参加して、そのうち天童市から何人の参加者があったのかというものはわかっているのでしょうか。

◎武田淳総務部長 お答え申し上げます。

昨年度の実績であります。3回イベントを実施しておりまして、全体の参加者は76人です。このうち本市の、いわゆる天童市からの参加者については18名となっております。

◆三宅和広議員 こちらの事業は18人、78人に対して18人多いのかなと思いますが、もっと参加していただければいいのかなと思っております。

PRを積極的にやればいいのかと思います。先ほど10月のイベントの開催通知を天童市の一斉メールサービスの方で配信をしていただいたということを申し上げました。天童市の一斉メールサービスの方に婚活情報という新たなコーナーを設けてもいいのかなという気がします。その辺のところ、どうでしょうか。希望する人に直接情報が届けばイベントへの参加者が増えるように思えるのですが、天童市一斉メールサービスのメニューに婚活情報というコーナーを新たにつくって情報提供するという点についてお考えをお聞かせいただきたいと思っております。

◎武田淳総務部長 お答え申し上げます。

婚活イベントについては、今後もより一層、一斉メールの活用を図っていきたく考えております。

その中で、コーナーの設置については少しほかのものとの関連もありますので、細部について少し詰めさせていただきたいと思っております。

◆三宅和広議員 新たにつくるといろいろなところに影響が出るのかなと思います。いろいろなものが必要だというふうになってくると困るということもあります。

今は市からのお知らせのコーナーの方で、イベント情報の一つとして情報を提供しておるわけですが、それでもいいのかなとは思いますが、市からのお知らせのコーナーの中に婚活情報が含まれているということを皆さんに周知しておかないと、婚活情報を必要と

している方々から、そういった情報が得られるのだということがわからないとなかなか登録が進まないのかなという気がします。婚活の必要ない人に婚活情報を提供してもあまり意味がないと思いますので、婚活情報を必要な人に、こういった情報の提供があるということを広く周知していただく必要があると思いますので、その辺のところよろしくお願ひしたいと思います。

婚活情報としていろいろな情報がありますので、そちらの方、多くの方に参加していただけるように活用していただければよろしいのかなと思います。よろしくお願ひいたします。

それから、婚活支援団体との情報交換及び連携推進事業ということで、5月25日、意見交換会を開催されたということをお伺ひしました。こちらの方の出席団体の状況というか、そういったところをちょっとお知らせいただければと思います。

◎武田淳総務部長 お答え申し上げます。

今回、市内の婚活団体、全部で15団体の方に御案内を差し上げております。それから、登録者についても6名の方に御案内を差し上げております。

出席状況については確認しておりませんが、ほとんど出席していただいたのではないかなと考えているところであります。

◆三宅和広議員 前に担当の方からお聞きしたところによると、仲人さんは、個人になるのでしょうか参加されて、個別に持っている情報の交換、そういった場としても活用されているというふうなお話をお聞きしました。仲人さんは確かにマッチングする機会というものを感じがっているのかなという気がします。こういった情報交換、年に1回だけなのでしょうか、もっと開催する必要があるのかなと思います。仲人さんを対象に、個別的な情報の交換をするものを定期的で開催するようなことも考えてはどうかなと思いますが、いかがでしょうか。

◎武田淳総務部長 お答え申し上げます。

情報化が非常に大切なことですので、今年度1回であります、今後は回数の増加について考えてまいりたいと思っております。

◆三宅和広議員 回数増やすとともに、先ほど申しました仲人さんだけでもいいので、仲人さんが情報交換する場というものをぜひ増やしていただければよろしいのかなと思っております。

27年度の3カ年実施計画書で婚活活動支援事業の従事職員数というものが0.2人というふうになっておりました。0.2人ということは、1週間のうちに1人が1日業務に従事するという計算になるのかなと思います。先ほど、総合戦略の中でも婚活というものを位置づけられているということですので、結婚活動支援事業にもっと力を入れる必要があるのかなと思います。1週間に1人が1日従事するだけでは足りないのかなと思います。ですが、人員を増やすのはなかなか難しいのかなという気がします。



そこで、1つ提案なのですが、天童市の男女共同参画社会推進委員会、こちら公募で人を集めて委員会を組織しているところがございます。こういった、市民が中心となって運営していくような組織、例えば、「天童市の婚活を支援する会」のようなものをつくって、行政になるべく負担をかけないようにして、みずからで運営するような組織をつくる必要があるのかなと思いますが、その辺のところ、お考えいかがでございましょうか。

◎武田淳総務部長 お答え申し上げます。

婚活イベントについては市内の支援団体の方が非常に頑張っていていただきありがとうございますし、あわせて、「むらやま広域」のほうでもかなり幅広く活動を行っておりますので、現段階では新たな組織を設立するまでは行っていないのかなと考えておりますが、今後の課題だとは認識しているところであります。

当面、婚活団体の支援それから情報発信にさらに充実して取り組んでいきたいと考えているところであります。

◆三宅和広議員 婚活団体の支援、情報発信ということで、すぐにこの委員会をつくるというのは難しいのかもしれませんが、この委員会をつくって、そういったことを、この委員会を中心になって進めていただくようなことでもいいのかなという気がします。ぜひ御検討いただければいいのかなと思います。

婚活支援の最後になりますが、5月2日、こちら日本記念日協会が認定した婚活の日だそうです。今年度は無理ですので来年度、この婚活の日に合わせて、千歳市でつくったような婚活のイメージキャラクターをつくるのかそういった取り組みをしてみたいかなと思っております。キャラクターは簡単にできないと思いますので公募をしたり、芸工大の学生さんとか天童高校、電波高校の生徒さんに作成を依頼するとか、そういったことをつくってはいかがかなと思います。

天童市として婚活を積極的に進める姿勢を示すということが出来ますし、市民の意識高揚にもつながると思いますので、ぜひ実現していただければいいのかなと思います。

以上、婚活についてお尋ねしました。天童市のさまざまな取り組みによって、一組でも多くのカップルが誕生して結婚に至ってほしいものだと思います。

次に、質問事項の2番目、天童市の林業振興について再質問させていただきます。

森林整備をするに当たって、森林組合の役割が重要になってくるということでございました。天童市として、この森林組合を支援するという取り組みというものはどのようになっているのでございましょうか。

◎阿部英弥経済部長 支援と申しますか、ちょっと異なるかとは思いますが、森林組合の方へは、例年、ハード部分といたしまして松くい虫対策、あるいはナラ枯れ防止対策等々の対策を連携してやらせていただいておりますとともに、市長の答弁にもございましたとおり、森林のほうの間伐等の作業をやる際には森林経営計画を森林組合のほうで立案していただくというようなことが必要になってまいりますので、それが立案された場合には市の方と協定等を締結してお互いに連携してやっていくというようなこととなります。

し、その計画に基づく協定を締結した場合には、国等からの交付金も受けられるというような制度になってございます。

◆三宅和広議員 「天童市の農林業」という冊子の中に、今後の課題ということで森林の林業、木材産業の担い手として森林組合の組織運営の強化を図る必要があるというふうな記載がされております。天童市として森林組合の組織運営強化の方に、さらに力を入れてもらう必要があるのかなと思います。

先ほど、最上町の木質バイオマスボイラーのお話をさせていただきましたが、こういったことも天童市としても取り組んではいかがかなと思いますが、その辺のところいかがでしょうか。

◎阿部英弥経済部長 議員の1回目の質問の中で最上町の事例がございました。

森林ノミクスの件もございましたけれども、35市町村のうちで、三川町を除く34市町村の方で林野というものが存在いたしますが、天童市の方の林野面積は、35市町村のうちで31番目となっております。ちなみに、最上町の方は7番目ということで、先ほど天童市の林野面積が3,777ヘクタールということでございましたが、最上町のほうの林野面積は2万7,908ヘクタールというようなことで約7.4倍になってございます。

この中で問題になりますのが、人工林のほうの問題にもなってくると思うのですが、本市の場合、民有林のほうの人工林と国有林の人工林を合わせたものが1,400ヘクタールほどになってございますけれども、最上町のほうではこれが9,800ヘクタールというようなことで、約7倍弱というような状況にもなっております。これは林野面積からのみ見たところでございますけれども、さらには、林家数ですか、林業をなりわいとしている方の大小あるいはその経営規模、あとは、その地域に製材所等があるのかどうかというようなことでも、その林業政策というものが大きく異なってくるのかなと思っております。

幸い、最上町には大きな製材所等もあるというふうなことで、残念ながら、現在、本市には製材所がなくなってから久しい状況にございますので、これからの林業振興に当たりましては、森林組合等々と話し合いを持ちながら、こういった振興策が一番よろしいのかということも調査研究していかなければならないのかなと思っております。

◆三宅和広議員 面積的に最上町と比べて少ないというふうなことでございますけれども、最上町でやっている木質バイオマスボイラーの程度であれば、天童市の森林面積でも十分できるのかなという気がしますが、その辺のところ、算定というか計算というかされた経緯はあるのでしょうか。

◎阿部英弥経済部長 大変不勉強で申しわけございませんが、これまでそういった試算までしたのかどうかということは考えておりませんが、恐らくは、量的なものとなれば回っていくのかなと思います。ただ、先ほど申し上げましたように近隣に製材所がないものですから、そういった木質バイオマスのチップ等をつくるときに輸送コスト等々が、大きな問題になってくるのかなというように思います。

そういったことから、こういった最上町での取り組み、あるいは、それほどではないにしろ木質バイオマスのチップを使ったボイラーの導入に当たっては、その製材業あるいはチップ業者との連携がかなり重要なものと思っております。

◆三宅和広議員 製材所が近くにないので輸送コストがかかるというお話しでしたが、間伐材であれば製材所でなくても簡易なチップ化というのは可能なようです。そうすると輸送コストがそんなにかからないのでできるのかなという気がしておりました。

現在、天童市内にある森林で間伐というものは行っているのでしょうか。

◎阿部英弥経済部長 先ほど市長答弁にもございましたとおり、市行造林の中にありましては間伐を実施しているというふうなところもございますし、あと、間伐ということではなく森林所有者が直接業者に依頼して皆伐というようなところもやっているところがございます。

また、去年は若松地域の方で危険木の伐倒ということで、これは間伐ではございませんけれども、樹齢85年ほどになる木を140本ほど伐採しているというようなことでそういった事業をやっておるわけなのですが、先ほども申し上げましたとおり、国からの支援を受けて、交付金をもらってというようなことになると、森林経営計画を森林組合の方でつくっていただくというようなことになりませんと助成金も出ないというようなことでありますから、なかなかその取り組みを森林組合の方でやっていただかなければまず動けないのかなと、あとは、先ほど申し上げましたとおり、個人の所有者が直接依頼して行うというようなことにしかならないのかなと思っております。

◆三宅和広議員 間伐をやれば森林の整備が進むのかなという気がしますので、間伐をやってそれを木質バイオマスで使ってというようなサイクルが回ればいいのかと思ったところでございます。

間伐するに当たって林道というものが整備される必要があるのかなと思いますが、天童市の林道の整備状況というものがどうなっておりますでしょうか。

◎阿部英弥経済部長 林道整備ということでは一応の完結を見ているのかなと思います。

その中で、間伐をするための作業道を森林経営計画の中でどこに配置すれば一番効率的なのか、林道からどのような延び方をした作業道を配置すればいいのかということを森林経営計画の中で作りながら間伐なりをやっていくというような作業になっていくのかなと思っております。

◆三宅和広議員 完了しているということをおっしゃったのかなと思いますけれども、これから整備する必要があるようなところはないという理解でよろしいのでしょうか。

◎阿部英弥経済部長 今後、山の奥のほうに入っていくというような意味合いでは出てくるのかもしれませんが、今の段階で間伐を行っていくというような中であっては、山々

に入っていく林道が形成されておりますので、切り出しのための作業道関係については、その森林経営計画の中で一番いいルートを選定し、その整備費についても国からの交付を受けながらやっていくというようなことになろうかと思っております。

◆三宅和広議員 国からの補助金、県からの補助金が出るというようなことですので、そういったものを活用して、ぜひ、さらに進めていただければいいのかなと思っております。

森林間伐材を利用してバイオマスボイラーを活用して雇用もつくって森林整備が進めば、天童産の木材もつくれるようになるのかなと思います。ぜひ、天童ブランドの木材もつくれるようにしていただければいいのかなと思います。よろしく願いいたします。

以上で、天童市の婚活と林業についての質問を終わらせていただきます。今までより一層活発になることを念じまして質問のほうを終わらせていただきます。ありがとうございました。